

暑くなったり肌寒かったり

寒暖差が激しいですね

これを書いているのは五月二十二日です。近頃は気温の変動が激しいですね。7月並みの暑さを記録したり、かと思えば季節が戻ったような肌寒い日があったりと、少々体にこたえるような状況となっています。

気象関係の長期予報を見てみると、これから先は「平年よりやや暑い」と見込まれています。そして、今年の夏も「暑い夏」だろうと予想されています。

この時期は夏に備えて体が慣れていく時期なのですが、いまの状態だと少々しんどいですね。

体調管理が難しいですが、体をいたわっていきましょう。



神社うんちく帖

さて、今回も引き続き『古事記』に則って、神様たちのご紹介記事です。

◆於母陀流神・阿夜訶志古泥神 おもだるのかみ・あやかしこねのかみ

前回登場した「意富斗能地神・大斗乃辨神」の次に現れた神さまです。こちらの二柱の神様も詳しいことはわかっていません。

諸説ありますが、「おもだる」の「おも」は「面」に通じることから、「人の顔や形」の意味であり、それが「たる(足る)」ということことで、「人体の完成」の意味ともいわれています。

また「あやにかしこし」の「あやに」は、古語で「言い表しようのない」「なんとも不思議に」という意味で使われますし「かしこし」は「畏れ多い」という意味なので、「あやにかしこし」とは「例えようもなく畏れ多い」となります。

このことから、この二柱の神さま方は「人体の完成」を象徴する神様だと解釈されているようです。

ちなみに、この二柱の神さまも「対になる神さま」です。『古事記』の表記では「妹阿夜訶志古泥」と「妹」と記述されていますので、こちらも「夫婦神」であると言われています。

ここから話はちよつと脱線します。

◆祝詞の中に「あやにかしいき」

神道では、祭典の際に、神職がご神前で「祝詞(のりと)」を奏上します。皆さまも耳にされたことがあると思いますが、この「祝詞」の意味を辞書で引くと「神を祭り、神に祈る言葉」と紹介されています。

この祝詞の中に「かけまくもあやにかしこき」という文言がよく使われており、神さまを称える心を込めています。この言葉は、祝詞の冒頭で使われることが多いので、どうぞぞ耳を澄ませてお聞きください。

「神社でお祓いを受ける」というときの「お祓い」は、神職が「祓詞(はらえことば)」というお祓いの言葉を唱え、「おおぬき」と呼ばれる紙垂を束ねたものを手に、納められたお初穂料やお守り、参拝の方の清め祓いをすることです。

祓い清めたのち、神職が神さまに向けて「祝詞」を唱え、参拝の方もご神前で拝礼をしていただきます。

ご神道においてはこの一連の儀式を「祭り」といいます。なので、一般に「お祓い」と言われているのも、すべて「祭り」なのです。